

公共施設を活用した地域づくり事例

公共施設を活用した地域づくり事例

目次

富山県	国道・県道におけるフラワーライン事業	1
兵庫県	但馬ツーリズムロード（但馬アルペンロード、但馬コースタルロード）	3
富山県	道路愛護ボランティア制度	5
島根県	ハートフルロードしまね（道路のアダプトプログラム）	7
山口県	道路愛護ボランティア	9
青森県	黒石市 浅瀬石川やすらぎの水辺空間整備事業	11
秋田県	本荘市・大内町 環境に配慮した住民参加による芋川改修事業	13
石川県	加賀市 大聖寺川 ふるさとの川モデル事業	15
富山県	氷見市 市街地中心部における急傾斜地の隣接都市公園との一体的整備	17
兵庫県	いきいき県土づくりプログラム（兵庫県版アドプト・プログラム）の推進	19
富山県	黒部市 高橋川・仁助川 隣接する都市公園と一体となった河川環境整備	21
富山県	高岡市 千保川 隣接する都市公園と一体となった河川環境整備業	23
鳥取県	倉吉市 学校等の周辺環境モデル事業（阿部川）	25
秋田県	合川町 県立北欧の杜公園 都市公園事業	27
秋田県	雄和町 県立中央公園 都市公園事業	29
秋田県	大曲市総合公園	31
富山県	魚津市 魚津総合公園整備事業	33
富山県	富山市 城址公園整備事業	35
山口県	萩市 萩ウェルネスパーク整備事業	37
山形県	金山町 最上川ふるさと総合公園果樹活用事業	39
富山県	富山市 呉羽山公園整備事業	41
富山県	富山市 城山公園整備事業	43
福井県	あわら市（旧金津町） トリムパークかなづ（環境植樹祭等）	45
秋田県	能代港中島地区における緑地整備	47
秋田県	秋田港本港地区における緑地整備	49
秋田県	本荘港田尻地区における緑地整備	51
富山県	新湊市 伏木富山港（新湊地区）における港湾景観形成モデル事業	53
富山県	富山市 水橋地区ふれあい漁港漁村整備計画	55
富山県	氷見市 氷見地区ふれあい漁港漁村整備計画	57
石川県	能登島町 海岸環境整備事業 鳴島地区	59
兵庫県	香住町 香住海岸ルネッサンス計画	61
山口県	萩市 萩漁港 漁港環境整備事業	63
山口県	豊北町 角島エコアイランド整備事業	65
山形県	新庄市 エコロジーガーデン推進事業	67
新潟県	『にいがた「緑」の百年物語—木を植える県民運動』—学校の森づくり事業—	69
石川県	内浦町 地域資源活用型 体験交流施設	71
富山県	新川広域圏 水博物館構想推進事業	73

富山県 国道・県道におけるフラワーライン事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

県内

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	県管理道路
種類	道路
規模	主要な観光地までの道路

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

道路緑化推進費（フラワーライン事業）による草花の植栽を、県管理の国道・県道の路肩や花壇等に行い、道路交通の安全確保と沿道環境の向上に努めているところであり、グリーンプラン幹事会においてもその実績が報告され、重要な施策のひとつとして位置づけられている。

関係市町村に施工、管理を一括委託することにより、緑に対する認識を高めるとともに、市町村自らも緑化事業を推進していく、そのよび水的なものとした狙いがある。

(目的)

県管理国道・県道のうち、幹線道路や主要観光地へのアクセスルートにおける路肩や花壇等において、アベリアやベコニアなどの草花の植栽を昭和60年度から実施しており、道路交通の安全確保と沿道環境の向上に努めているもの

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

主要な観光地へアクセスする県管理道路 県内 33路線 35箇所
国道156号 国道304号 等

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定

昭和60年より実施し、平成15年度においては、朝日宇奈月線、国道156号、国道304号、富山立山公園線等の観光道路やICアクセス道路について、約39kmのフラワーラインが設置済みとなっている。

(事業)

活用事例に適用されている事業

フラワーライン事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業実施にあたっては、関係市町村へ委託している。受託した市町村は、地元住民の協力や業者への再委託により対応している。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

市町村においても緑に対する認識が高まるとともに、市町村自らも緑化事業を推進していく、そのよび水的なものとしての狙いがある。実際、市町村が実施の主導権を握ることにより、地元住民等の参加を促し、道路緑化に対する認識が高まることとなった。また草取りなどのよりきめの細かい管理が行われることとなり、その美しさが長持ちすることにも繋がった。このほかにドライバーや観光客からの好評を得たことにより、近隣市町村道や農道においても緑化が進み、観光地へのアクセスルートそのものが観光名所となったところもある。こうしたことから、受託した一部の市町村では、単費を追加し、県管理道路での延長を増やしたり、隣接する市町村道に飾花を行うなど、事業の推進に努めている。

■図版・写真等



国道304号 城端町

■担当(紹介)部署

富山県土木部道路課

兵庫県 但馬ツーリズムロード（但馬アルペンロード、但馬コースタルロード）

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

豊岡市、城崎町、竹野町、香住町、村岡町、浜坂町、美方町、温泉町、大屋町、関宮町

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	豊岡市、城崎町、竹野町、香住町、村岡町、浜坂町、美方町、温泉町、大屋町、関宮町
種類	国道（178号、482号）、県道（香住久美浜線、若桜温泉線ほか）等
規模	延べ158.6km

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（目的）

四季折々の景観を彩る但馬の魅力を連携させるため、山間部・海岸沿いの豊かな自然資源や多様な交流施設を活かした「但馬アルペンロード」と「但馬コースタルロード」を設定し、新たな観光資源にすることにより、但馬への誘客とリピーターの確保を目指す。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

県作成の基幹案内板をツーリズムロード沿線の主要交流施設の敷地内5箇所に、関係市町作成の誘導標識をツーリズムロード沿い42箇所に設置している。

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成13年度に県で基幹案内板を、関係市町で誘導標識を設置するとともに、ツーリズムロードと沿線の交流施設、観光資源等を紹介した但馬ツーリズムロードマップを40,000部作成し、観光施設等へ配付。

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

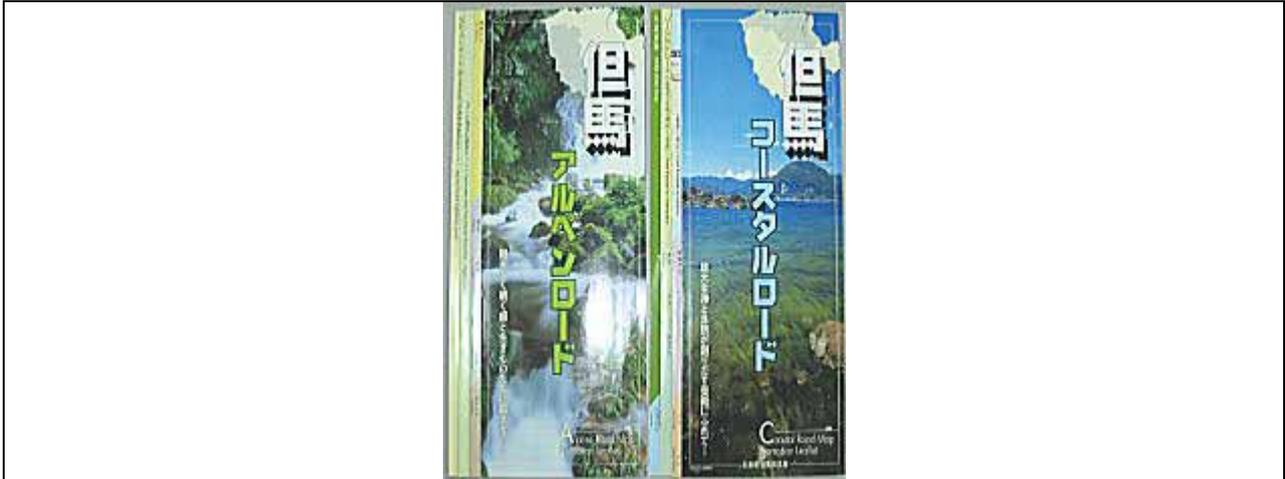
県関係部局（土木、農林、観光関係）をはじめ関係市町の協力が不可欠である。また、各ルート設定の目的を達成するためには、地域住民等による来訪者へのホスピタリティが不可欠である。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

地域資源を見直し、それぞれの点を線（面）として捉えネットワーク化した試みである。また、これにより従来にも増して但馬地域の広域的な観光の促進が図られる。

■ 図版・写真等



■ 担当（紹介）部署

兵庫県但馬県民局地域振興部商工労政課

富山県 道路愛護ボランティア制度

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

県内

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	県管理道路
種類	道路
規模	県管理道路のうち、各団体が申請した範囲内

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

全国都市緑化祭を契機に、花と緑を愛する気持ちが県民にも広く浸透、普及しつつあるなか、2000年とやま国体が開催されるにあたり、住民による美化・緑化活動への取り組みが活発化してきたこと。

(目的)

県管理道路の清掃・美化、緑化等のボランティア活動を継続的・積極的に行っている団体を支援し、住民による道路沿線の美化推進を図るとともに、地域社会の一層の活性化を目指すもの。

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間：平成12年度～（今後も引き続き当該制度の拡充に努める）

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、富山県。

登録団体は、町内会、商店街、企業有志、高校、老人会、その他地域住民による団体など。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

ボランティア活動について、既存のアドプトに見られるような細かい規定・規約等は設けず、各団体の自主性に委ねていること。

■ 図版・写真等

活動地域	団体名	登録人数	路線名
富山市	石金～中市	NTT-ME北陸富山支店社員一同	338 (主) 富山大沢野線
	上本町	上本町商店街振興組合	53 (主) 富山上滝立山線
	西荒屋～吉倉	新保ル・ロード花いっぱい運動実行委員会	644 (主) 富山笹津線
	石金	富山市立東部小学校環境グループ	55 (主) 富山大沢野線
	堤町通り～中央通り	富山第一銀行労働組合堤町分会	13 (主) 富山立山公園線
	水橋中村町～水橋西天神町	中部校下花の里親会	131 (主) 富山魚津線
	水橋山王町～水橋川原町	水橋西部花と緑の会	23 (主) 富山魚津線
高岡市	城光寺～米島	二上地区環境美化推進委員会	54 (主) 高岡環状線
	伏木矢田～伏木国分	ふしき万葉坂ロード振興会	54 (国) 4 1 5 号
魚津市	北中～青島	青島老人クラブ千歳会	94 (主) 魚津生地入善線
	吉島	新川高等学校生徒会	40 (一) 三ヶ吉島線
	新角川	八代区町内会	41 (一) 堀江魚津線
	上口	角川若草ボランティアグループ	8 (一) 堀江魚津線
氷見市	桑院	ひまわりの会	5 (主) 高岡氷見線
	早借	早借走友会	4 (一) 氷見志雄線
黒部市	沓掛	黒部市沓掛町内会	45 (主) 若栗生地線
	天神新～三日市	黒部駅前名水道路美化推進協議会	18 (一) 六天天神新線
	上野	上野3区緑と花を育てるグループ	65 (一) 荒屋上野線
小矢部市	安楽寺	南谷ボランティア	20 (国) 4 7 1 号
	矢水町	むつみ会	28 (一) 富山庄川小矢部自転車道線
	浅地	メルヘン花工房	20 (一) 富山庄川小矢部自転車道線
	藤森	藤森自治会	21 (国) 3 5 9 号 (一) 藤森岡線
	矢水町	矢水工房	10 (一) 藤森岡線
	島～福上	野菊の会	58 (国) 4 7 1 号
砺波市	新富町～林	コーキ・CS会	65 (一) 北高木新富町線
	広上町	出町けやき会	16 (一) 安養寺砺波線
立山町	西大森	大森自治振興会	34 (一) 西大森五百石線
大門町	二口	翠の会	30 (主) 新湊庄川線
利賀村	利賀～岩淵	上村花の会	5 (主) 利賀河合線
庄川町	五ヶ	3 4 ごとかみちグループ	28 (一) 本町高木出線
	三谷	三谷緑化愛好会	5 (主) 砺波細入線
福野町	苗島～八塚	川田交通安全協会	26 (主) 砺波福光線
	長源寺	岩崎道路パトロール推進協議会	17 (一) 小森谷庄川線
福光町	川西	日本海園芸従業員会	8 (国) 3 0 4 号
	高窪	高新会	1 (国) 3 0 4 号
	竹林	山田成人クラブ	35 (国) 3 0 4 号
福岡町	大滝	大滝自治会道路愛護ボランティア会	6 (一) 西中大滝線



URL:<http://www.pref.toyama.jp/sections/1501/1501.htm>

■ 担当（紹介）部署

富山県土木部道路課

島根県 ハートフルロードしまね（道路のアダプトプログラム）

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

松江市、安来市、大田市、浜田市、玉湯町、宍道町等の6市13町2村（県内63団体）

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	益田市	(1団体の例)
種類	あじさい友の会（道路の清掃、緑化）	
規模	国道191号 沿線 延長=2.7km	

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

以下の要因で、道路の清掃、除草、緑化管理が困難な状況であり、対応策が必要となっている。

- ・空き缶等のポイ捨てがいぜんとして減らない
- ・道路維持管理費の負担が大で、除草がなかなか出来てない状況
- ・道路整備による緑地帯の延長が増大するなか、管理にかかる予算不足
- ・道路利用者のマナーアップへの啓発

（目的）

島根県道路愛護ボランティア制度「ハートフルロードしまね」は、県管理の国道・県道において地域に住む皆様のボランティアにより道路の清掃や美化などの活動を行う方法で、道路への愛着心を深めるとともに、道路利用者のマナー向上を啓発することを目的とする。「自分の町は自分できれいにする」という、住民の地域への帰属意識の高揚と、新たなコミュニティ形成や地域の活性化への期待。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

島根県道路愛護ボランティア制度「ハートフルロードしまね」による活動に対して以下のことを行う。

- 実施団体の認定
- 万が一の事故に備えて傷害保険の加入手続及び保険料の負担
- ボランティア活動を行っている団体名・企業名などを記した表示板の設置
- 道路愛護に貢献があった、個人及び団体を大臣及び知事表彰することにより、道路愛護思想の普及を図る。

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定

この制度は、平成12年度から活動している。

平成14年度までは以下の状況である。

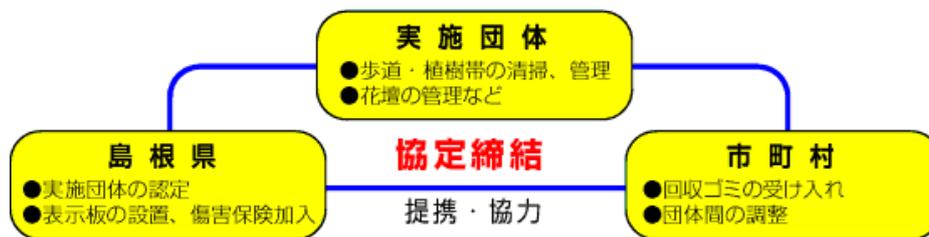
・団体数59団体、実施延長＝95.8kmで、清掃、空き缶拾い、除草、花壇造り、花の植え付け
平成15年度の活動状況は以下のとおり。

・団体数63団体、実施延長＝105.9km（平成15年12月末現在）作業内容は上記と同じ

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、ボランティア活動に意欲を持つ団体や企業あるいは個人である。県は「実施団体」として認定し、島根県と市町村の支援のもとに、道路の一定区間の清掃・緑化活動をお願いしている。



■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

道路通行者に活動状況を見せることにより、ポイ捨てを減らすと言う意識啓発につながっている。この制度を通じて、道路への愛着心や、住民の地域への帰属意識の高まり、さらに「みち」を中心とした「新たなコミュニティ形成や地域の活性化」が、県内各地で展開されることは評価できる。また、道路の維持管理についての住民ニーズは、行政任せではなく自分たちの町にある道路は自分たちで守るという意識は多いに評価できる。

■図版・写真等



玉造上町内会

島根県土木部ボランティア制度紹介ページ <http://www.pref.shimane.jp/section/road/p14/14.html>

「ハートフルロード・しまね」認定団体ページ <http://www.pref.shimane.jp/section/road/p14/141.html>

■担当（紹介）

島根県土木部道路維持課

山口県 道路愛護ボランティア

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

長門市、三隅町、日置町、油谷町、豊北町

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	一般国道（指定区間外）、県道
種類	道路花壇
規模	

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

地域住民の求める道路管理が、安全に通行できる空間の確保から、安全で快適に通行できる空間の確保へ変化してきたが、限られた人員と予算の中では安全な通行空間の確保を優先せざるを得ない。一方で、近年高まりを見せつつある県民活動の場としての道路利用も求められている。

（目的）

地域の道路において花壇整備及び歩道清掃等の道路愛護ボランティア活動を行う地域住民・団体・個人を支援し、その活動を活性化することにより、地域の道路環境の向上及び道路利用者に対する道路愛護精神の普及啓発を図る。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

道路花壇を地域住民により管理する。

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

今後とも PR に務め、より多くの地域における展開を図っていく。

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

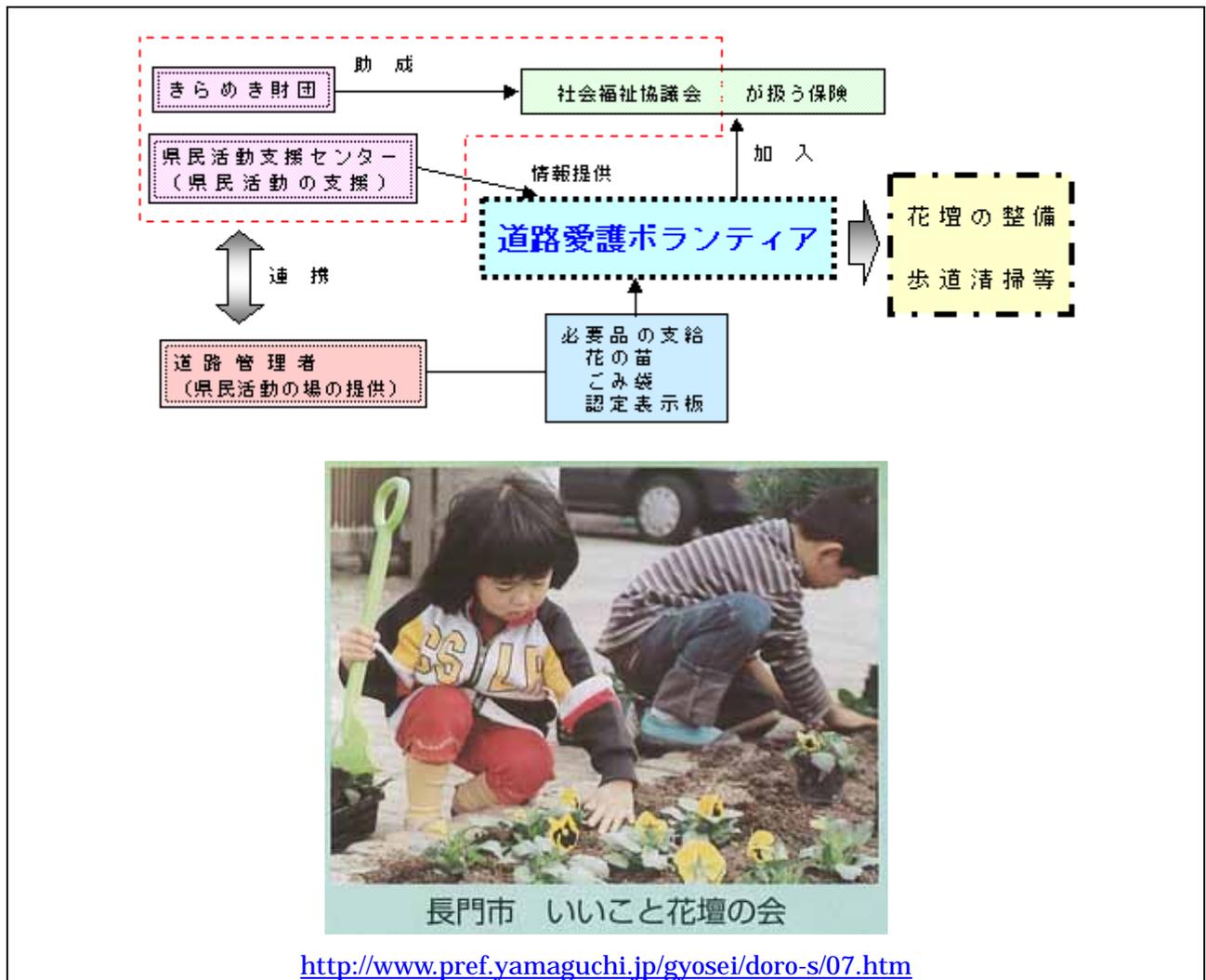
地域住民や各種団体の協力が必要であり、予算の範囲内でごみ袋や草花の苗を支給するなどの支援を行っている。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・住民と県との役割分担により道路環境の向上（快適な通行空間の確保）が図られる。
- ・活動が通行者の目に触れることにより、ごみのポイ捨て等を防ぐこと（道路利用者のマナー向上）が図られること。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

土木建築部 道路整備課 担当 藤川 電話 083-933-3680

青森県 黒石市 浅瀬石川やすらぎの水辺空間整備事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

青森県黒石市

■緑地資源の概要

活用緑地資源名称、種類や規模等

名称	岩木川水系浅瀬石川
種類	河川（親しみのある水辺空間の形成）
規模	A = 1 1 2, 0 0 0 m ²

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

浅瀬石川は、昭和50年の大災害を受け、緊急的にコンクリート護岸等の復旧工事を行ったため、必ずしも水辺に近づきやすいとは言えない状況にあった。

また、黒石市を貫流し、市街地における貴重な緑地空間である。

（目的）

最も身近に自然と触れ合える空間の一つである水辺空間を活用するため、親水性を高める整備を行い、市街地における緑地資源の価値を高めることが目的である。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

親水護岸
せせらぎ水路
植生ブロック
舗装工
階段工

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

当該区間においては、平成8年～平成11年で整備を完了している。

現在は地域の方々に親しまれているとともに、河川愛護団体による清掃活動も実施されている。

（事業）

活用事例に適用されている事業

心と体をいやす水辺空間整備事業（県単独事業）

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

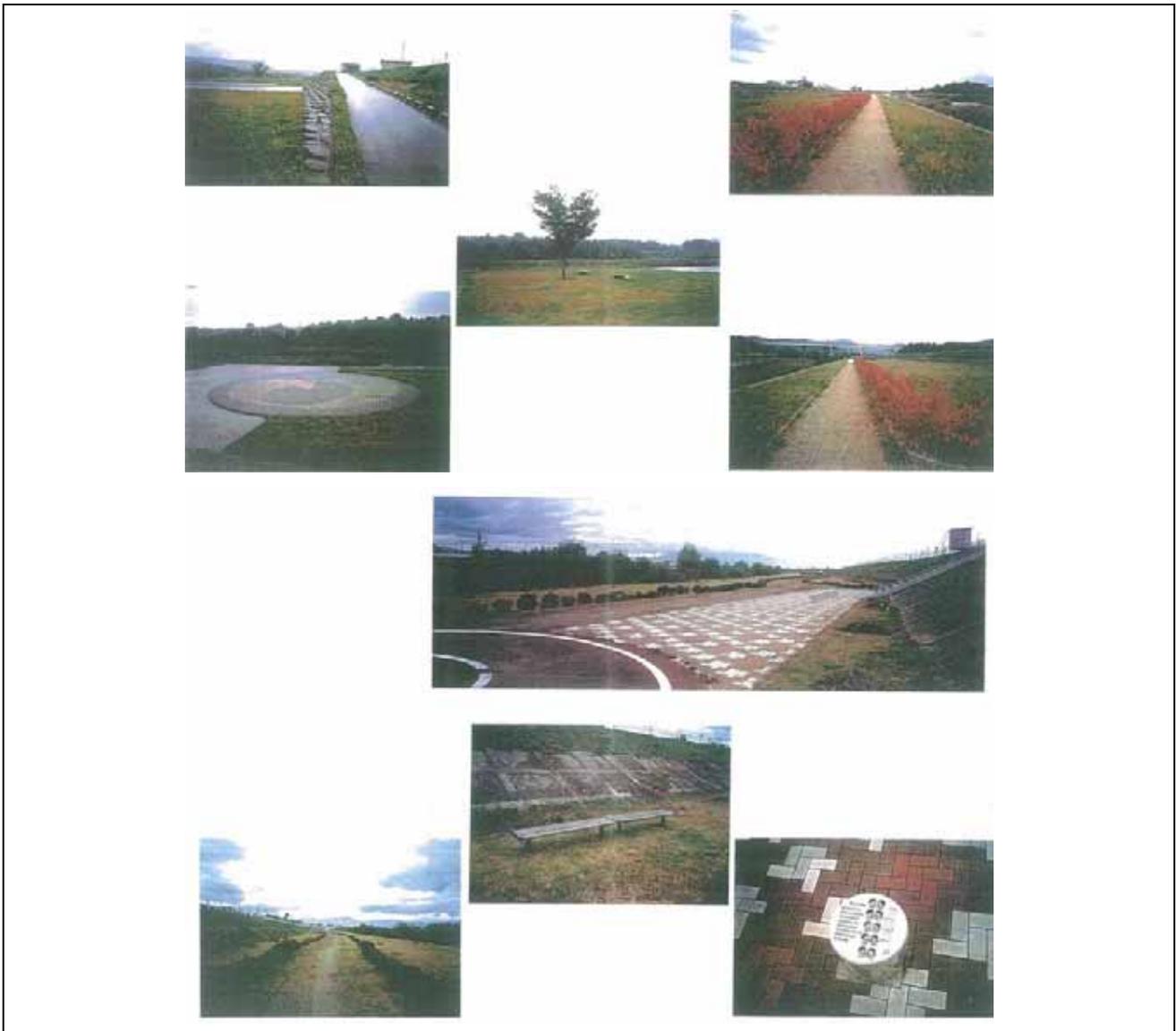
河川愛護団体（浅瀬石川クリーンの会）

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

親しみやすい水辺空間を形成した結果、ボランティア団体による清掃活動が行われるなど、地域の方々の河川に関する関心が高まっている。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

青森県県土整備部河川砂防課

秋田県 本荘市・大内町 環境に配慮した住民参加による芋川改修事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

秋田県本荘市、大内町

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	芋川河川改修
種類	多自然型川づくり
規模	子吉川合流点から約10km

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

芋川の河川改修では、洪水時の流量を安全に流すことのできる河道を整備するとともに、河川環境への配慮や住民参加の川づくりなど様々な取り組みが行われた。

(目的)

洪水時の流量を安全に流すとともに、水と緑が織りなす雄大な自然空間が人々の心を潤すように、河川環境等へ配慮した川づくりを実施した。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

連節ブロックは、表面の凹凸形状により覆土が流されにくく、自然に土砂が付きやすいものを選定し、河岸植生が早期回復できるようにした。

河道掘削の際には、低水路を保全するとともに、河岸に繁茂するヤナギ類やオニグルミなどの低木林については、アオサギなど鳥類の営巣場所となっていることから極力保全することとした。

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

今後は、地域住民の協力を得ながら維持管理に努めていく。

(事業)

活用事例に適用されている事業

河川災害復旧等関連緊急事業、災害復旧助成事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
秋田県整備後、芋川川づくり協議会（芋川を楽しむ会）。

活動組織は地域住民、事務局は本荘市建設部である。

■特徴

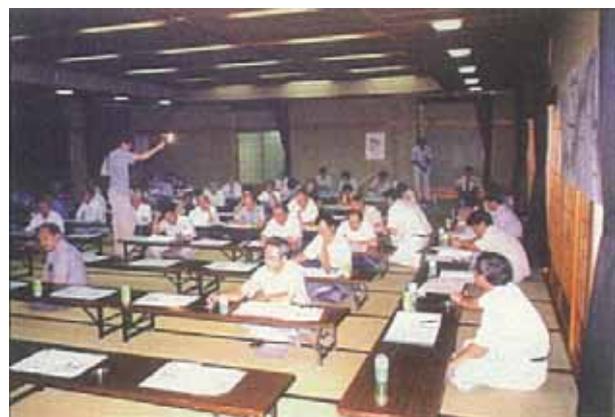
評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

地域住民が芋川を身近な存在として親しみをもって接するとともに、約10kmにわたる桜の植樹や育成を通して地域主体の維持管理の推進が期待される。

■図版・写真等



WSによる検討



協議会設立準備



サクラ堤植樹祭



追い込み漁体験

■担当（紹介）部署

秋田県河川課

石川県 加賀市 大聖寺川 ふるさとの川モデル事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

加賀市大聖寺地区

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	耳聞山公園、水守神社
種類	親水公園
規模	

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

大聖寺川は昭和41年度より中小河川改良事業として改修を進めてきたが、昭和56年7月の集中豪雨により大聖寺地区で大水害が発生し、河川激甚災害対策特別緊急事業の採択を受け、昭和61年に大聖寺川新川区間の整備が完成し、洪水による浸水被害の解消が図られたが、身近な日常生活の間でもあった市内河川（旧大聖寺川、三谷川、熊坂川）を再び市民の憩いの場として蘇らせようという気運が高まり昭和62年12月に建設省の「ふるさとの川モデル事業」の指定、平成元年6月に整備計画の認定を受け、整備を行った。

(目的)

- ①内水被害に対する安全度の向上を図る。
- ②水質の改善を図る。
- ③散策空間の連続性を図る。
- ④野鳥、魚類等豊かな水辺環境の創出、保全を図る。
- ⑤歴史性の演出を図る。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

重点地区に指定された水守神社地区については、人々の集いの場として石舞台を整備している。その際対岸の階段護岸は観覧席となり、一体的な利用がなされている。同様に耳聞山公園については、川沿いの散策において休憩場所となる芝生広場を設けており、中央にシンボルとしてモニュメントを設置し、水と時の流れを見守っている。

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は平成元年度から平成8年度であり、整備のポイントとしては以下のとおりである。

- ・昔から存在する「河道」を復元した。
- ・大聖寺の歴史と文化を後世に伝えるため、当時の船着場を復元した。
- ・河川空間にデッキ状の木道の整備を行った。
- ・情緒豊かな石貼りの散策道を整備した。
- ・動植物の快適な生育空間として、中の島を整備した。
- ・人々を水辺へと誘い、水とのふれあいを演出する木製のテラスを整備した。

(事業)

活用事例に適用されている事業

ふるさとの川モデル事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

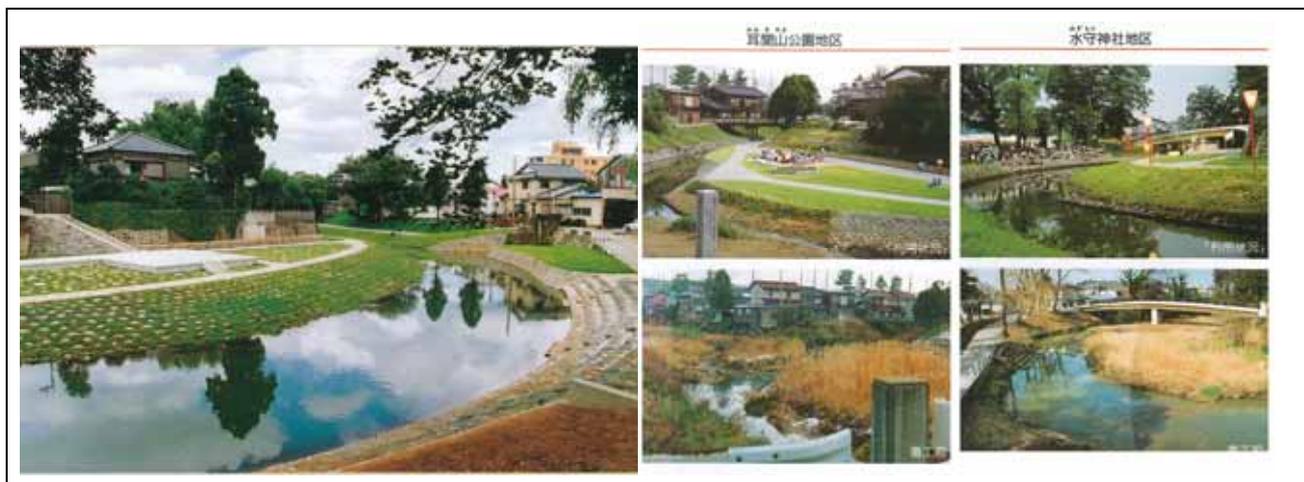
石川県、加賀市が事業主体となっており、河川や公園の景観保全には行政や市民の協力が個々において水辺の環境づくりのため積極的に参加がされている。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

ふるさとの川モデル事業によって創出された水辺空間を活用して、様々な催しやイベント等について加賀市と地元が主体となって実施を行っている。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

石川県大聖寺土木事務所建設課

富山県 氷見市 市街地中心部における急傾斜地の隣接都市公園との一体的整備

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

氷見市幸町

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	樹木による緑化
種類	斜面整備
規模	約 2 h a

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景) (目的)

当地区は氷見市街地の中心部にある朝日山丘陵に位置しており、斜面上部は古くから市民の憩いの場として親しまれてきた反面、急峻な斜面は崩壊の危険性が高く、昭和 36 年にがけ崩れが人家を直撃するなど災害が幾度となく発生していたため、急傾斜地崩壊対策事業にて地域住民の安全を確保するとともに、緑豊かで潤いのある斜面空間を想像するもの。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

排土工 約 200,000m³

法面工 約 22,000m²

(在来種の植樹による斜面緑化)

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成 8 年度～平成 1 8 年度

平成 14 年度までに排土工 126,000m³について完了。

平成 15 年度は、引き続き 24,000m³について実施予定。

平成 15 年度末における進捗状況は約 70%である。今後も同様に、平成 18 年度完成を目指す。

(事業)

活用事例に適用されている事業

七軒町地区急傾斜地崩壊対策事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり事業主体については県である。

また、「わが町の斜面整備構想」策定にあたり地域住民、自然保護の学識経験者等を交えた策定委員会が設置され、斜面上部の「朝日山公園整備事業」と一体となった整備を進めている。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

上記のように「わが町の斜面整備構想」により、地域の意見を積極的に取り入れている点。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

富山県土木部砂防課

兵庫県 いきいき県土づくりプログラム（兵庫県版アドプト・プログラム）の推進

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

兵庫県下全域（但馬地域全域）

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	
種類	道路、河川、海岸（但馬地域は河川のみ）
規模	但馬地域全域

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（目的）

兵庫県では、「21世紀兵庫長期ビジョン」の基本姿勢である「参画と協働」に向け、「コミュニケーション型県土づくりモデル事業」など、各種取り組みを実施しているところであるが、平成13年度より、一層の「参画と協働」を推進し、「美しい兵庫」を創出するため、新たに道路、河川、海岸などの清掃活動において、積極的に県民に参加してもらう「いきいき県土づくりプログラム（兵庫県版アドプト・プログラム）」を実施している。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

（概要）

- ・兵庫県管理の道路・河川・海岸等の公共物において、一定区間毎に活動団体を募り、公共物と参加者が合意書を締結し「養子縁組」する。
- ・参加者は、担当地区の活動団体として「養子」である公共物の清掃美化、草刈り、植栽等の活動を行う。

（取り組み）

- ・公募等により幅広く参加団体を募集する。
- ・活動団体名等を表示する看板を設置する。
- ・各種取り組みと連携し、清掃草刈りだけでなく、植栽や花壇づくり等も併せて行う。

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

（但馬地域の事例）

- | | | | | |
|------------|-----------|--------|-----|---------------------|
| ①佐津海岸（香住町） | L=650m | 13年7月～ | 年3回 | 清掃・美化（佐津観光協会） |
| ②竹野川（竹野町） | L=13,600m | 13年7月～ | 年3回 | 清掃・美化・草刈（地元地区他30団体） |

③田君川（浜坂町）	L = 200m	14年7月～	年3回	清掃・美化・草刈	（田君川バイカモ保存会）
④味原川（浜坂町）	L = 1,700m	15年7月～	年4回	清掃・草刈・植栽	（味原川清流会）

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

関係主体は上記のとおり

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

地域住民自らが地元の河川を守り活用する施策として、「養子縁組」手法（県が住民と河川の仲介役を果たす）を用いたこと。

■図版・写真等



田君川バイカモ保存会

兵庫県県土整備部技術企画課ページ：<http://web.pref.hyogo.jp/gijyutsukikaku/gizyututop.htm>

■担当（紹介）部署

兵庫県但馬県民局県土整備部企画調整担当

富山県 黒部市 高橋川・仁助川 隣接する都市公園と一体となった河川環境整備

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

黒部市

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	高橋川、仁助川
種類	河川
規模	実施延長 L=1800m

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

近年、水辺は貴重な水と緑の空間として地域社会に潤いを与えるとともに、まちの景観形成や余暇の有効利用などにおいて重要な役割を果たしており、特に最近ではまちづくりと一体的に水辺空間の整備を図ることが社会的な要請となっている。

(目的)

河川本来の自然環境の保全・創出や周辺景観との調和を図りつつ、地域整備と一体となった河川改修を行い、良好な水辺空間の形成を図る。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

親水性をもった河川 黒部市総合公園

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成9年より供用開始

(事業)

活用事例に適用されている事業

ふるさとの川モデル事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

地域住民により「高橋川を愛する会」が結成され、自らが主体となって施設の愛護維持や水辺の積極的活用を行っている。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

多自然型川づくりによりかつて自生していた動植物の復元が顕著であると同時に、地域住民が積極的に川に親しむこともでき、人と自然との共生がうまくいっている。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

富山県土木部河川課

富山県 高岡市 千保川 隣接する都市公園と一体となった河川環境整備業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

高岡市

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	千保川
種類	河川
規模	広場面積 3.2ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

近年、水辺は貴重な水と緑の空間として地域社会に潤いを与えるとともに、まちの景観形成や余暇の有効利用などにおいて重要な役割を果たしており、特に最近ではまちづくりと一体的に水辺空間の整備を図ることが社会的な要請となっている。

(目的)

河川本来の自然環境の保全・創出や周辺景観との調和を図りつつ、地域整備と一体となった河川改修を行い、良好な水辺空間の形成を図る。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

親水性をもった河川

高岡おとぎの森公園

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成9年より供用開始

(事業)

活用事例に適用されている事業

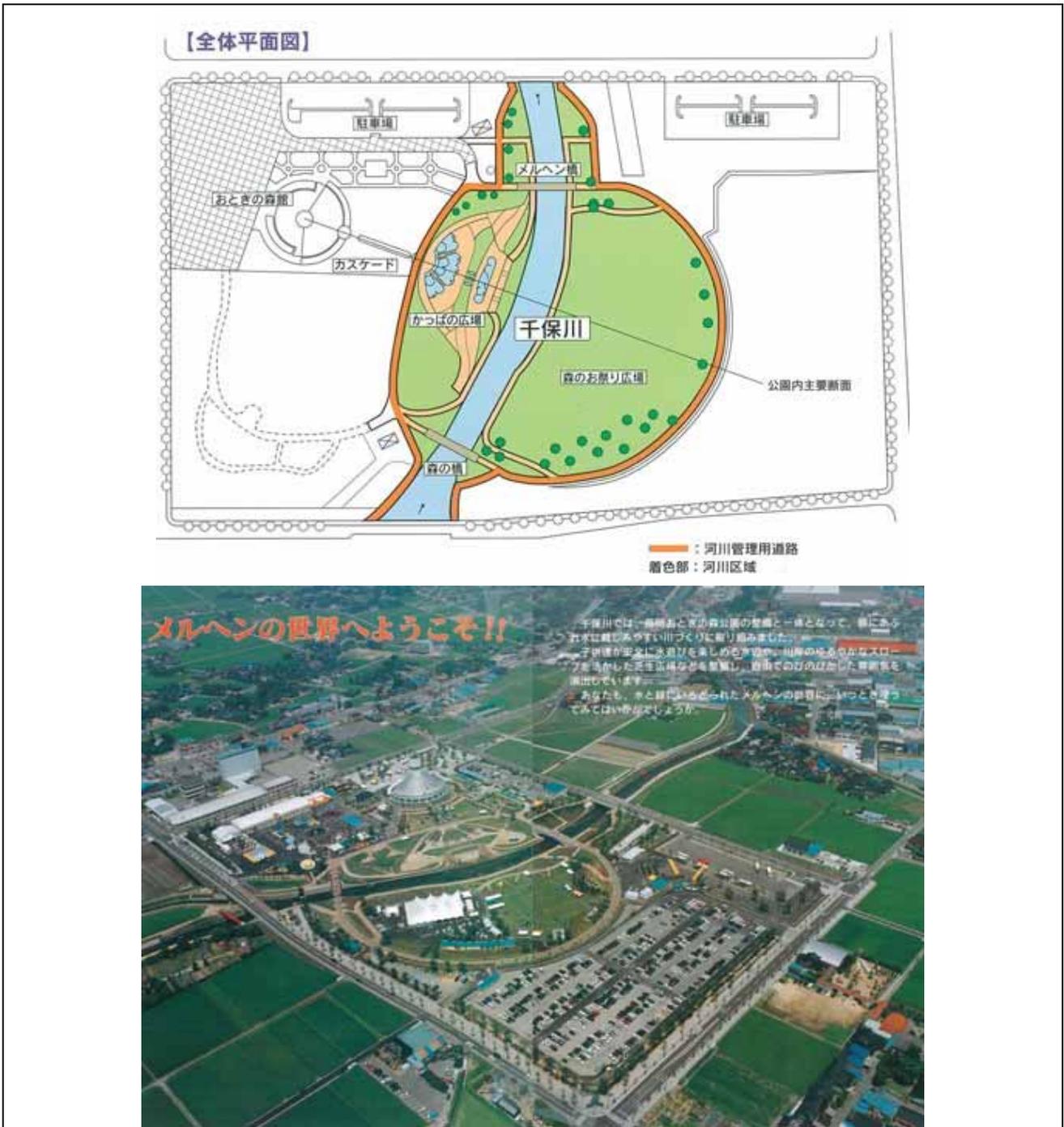
河川環境整備事業

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

安全に子供たちが水に親しむことができ、自然を通して親子の絆を強める空間となっている。

■ 図版・写真等



■ 担当（紹介）部署

富山県土木部河川課

鳥取県 倉吉市 学校等の周辺環境モデル事業（阿部川）

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

鳥取県倉吉市尾原

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	阿部川
種類	親水護岸整備
規模	50m

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

社会環境の変化等に伴い、子供たちの自然体験、生活体験、社会体験などの直接体験が不足しているため、幼児・学校教育等における実践活動を通じた自然環境やモノ（公共物）を大切にする心の育成が求められている。

（目的）

道路や河川等に隣接する各施設（幼稚園、学校等）及び教育委員会と連携し、公共施設管理者として河川・道路等を活用した直接体験活動の場の整備を支援する。

- ・子供たち自らの維持管理を通じて、自然環境や動・植物愛護等の豊かな心を育む
- ・モノ（公共物）を大切にする心を養う

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、計画施設等

阿部川 学校等の周辺環境整備モデル事業

水生動植物等との直接体験活動の場を整備（支援）

- ・河岸に川に親しめるよう階段、置き石を設置
- ・川底に淵や浅瀬及び段差を設置

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成14年度からの取り組みは下記のとおり。	
-----------------------	--

平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ・中部総合事務所県土整備局、教育事務所連名で学校・幼稚園等への照会、希望の把握 ・計画案の検討
平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡協議会を結成し、実施箇所を決定 ・調査設計（灘手保育園、教育事務所と設計協議）

	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の整備、活用、維持管理について基本協定締結 ・事業実施
施設整備後	<ul style="list-style-type: none"> ・水遊びや魚取り、草花・昆虫類の観察等の河川敷内での体験活動 ・子供たち等による河川敷内の維持管理 <p>(灘手保育園と管理協定締結、ボランティア推進事業等を活用し材料支給などで支援)</p> <p>活用状況、効果等について検証と還元(連絡協議会において報告、意見交換等)</p>

(事業)

活用事例に適用されている事業

学校等の周辺環境モデル事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は県であるが、道路や河川等に隣接する幼稚園及び教育委員会と連携し、施設の整備計画、活用、維持管理に取り組むこととしている。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

学校等と連携して計画し、維持管理面にも関わっていくことを通して、子供たちへ自然に親しむ豊かな心の育成と公共物を愛護する心を醸成する点が特徴。

■図版・写真等



完成写真(平成16年1月)



平成16年2月17日 日本海新聞

■担当(紹介)部署

鳥取県 県土整備部 河川課

秋田県 合川町 県立北欧の杜公園 都市公園事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

米城川流域地方生活圏 秋田県北秋田郡合川町

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	県立北欧の杜公園
種類	県民にやすらぎと潤いを提供するため公園緑地の創出
規模	計画面積 212.7ha 供用面積 93.6ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

リゾート法による「北緯40° シーズナルリゾート秋田」の重点整備地区となっている。

(目的)

広域的な余暇活動及び国際交流の場を創出するため、広大な台地を整備し緑地の創出を図る。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

○整備した施設

- ・大芝生広場、イベント広場、野外ステージ、休憩所、野鳥観察舎、オートキャンプ場

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・平成2年度から平成11年度まで施設の整備を実施した。

(事業)

活用事例に適用されている事業

- ・ふるさとづくり特別対策事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

- ・事業実施主体 秋田県

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・ 広大な台地を利用して、大芝生広場を整備するなど、北欧をイメージした牧歌的な公園である。

■図版・写真等

平成8年度/U230-Y1
 北欧の社公園
 スポーツゾーン基本設計
 全体計画平面図

公園区域
 供用区域
 整備中区域
 今後整備予定

立寄区域計画面積 A=212.7ha
 A. ファームランドゾーン /49.2ha
 B. レクリエーションゾーン /38.3ha
 C. スポーツゾーン /47.8ha
 D. レクリエーションゾーン /30.0ha
 E. パークセンターゾーン /12.4ha

凡例

	教育林 (野原組)
	体育林 (広葉樹)
	緑地緑陰 (列植)
	緑地緑陰 (散植)
	歩道 (緩歩・傾斜)
	球技施設(陸上競技場)
	球技施設(その他)

県立北欧の社公園

大芝生広場

イベント広場

中央休憩所

■担当 (紹介) 部署

- ・ 秋田県建設交通部都市計画課 TEL 018(860)2446

秋田県 雄和町 県立中央公園 都市公園事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

秋田臨海地方生活圏 秋田県河辺郡雄和町

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	県立中央公園
種類	県民にやすらぎと潤いを提供するため公園緑地の創出
規模	計画面積 583.8ha 供用面積 132.6ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

新秋田空港の建設に伴い、空港の騒音緩衝、環境の保全を図るため、広大な用地を確保する必要があった。一方、人々の生活の質の向上に対する欲求が高度化・多様化し、余暇時間の増大と相まって、レクリエーション需要に対処するものが必要となり、本地区への計画が検討された。

(目的)

なだらかな丘陵地、樹林地、草原からなる自然条件を生かした広域的なレクリエーション、スポーツの場としての整備と併せ、休養及び散策の場として緑地の創出を図る。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

○整備した施設

- ・ファミリーピクニックゾーン：桜広場、ツツジ森、中央噴水広場、芝生広場、展望台
- ・青少年教育ゾーン：若人の丘、花山、フィールドアスレチックコース、ファミリーキャンプ場
- ・スポーツゾーン：陸上競技場、庭球場、競技場、野球場、トレーニングセンター（公園事務所）、中央広場、あきたスカイドーム

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・昭和52年度から平成15年度まで施設の整備を実施した。
- ・今後は18年度まで施設の整備を実施し、19年度から自然観察ゾーンの整備を予定している。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

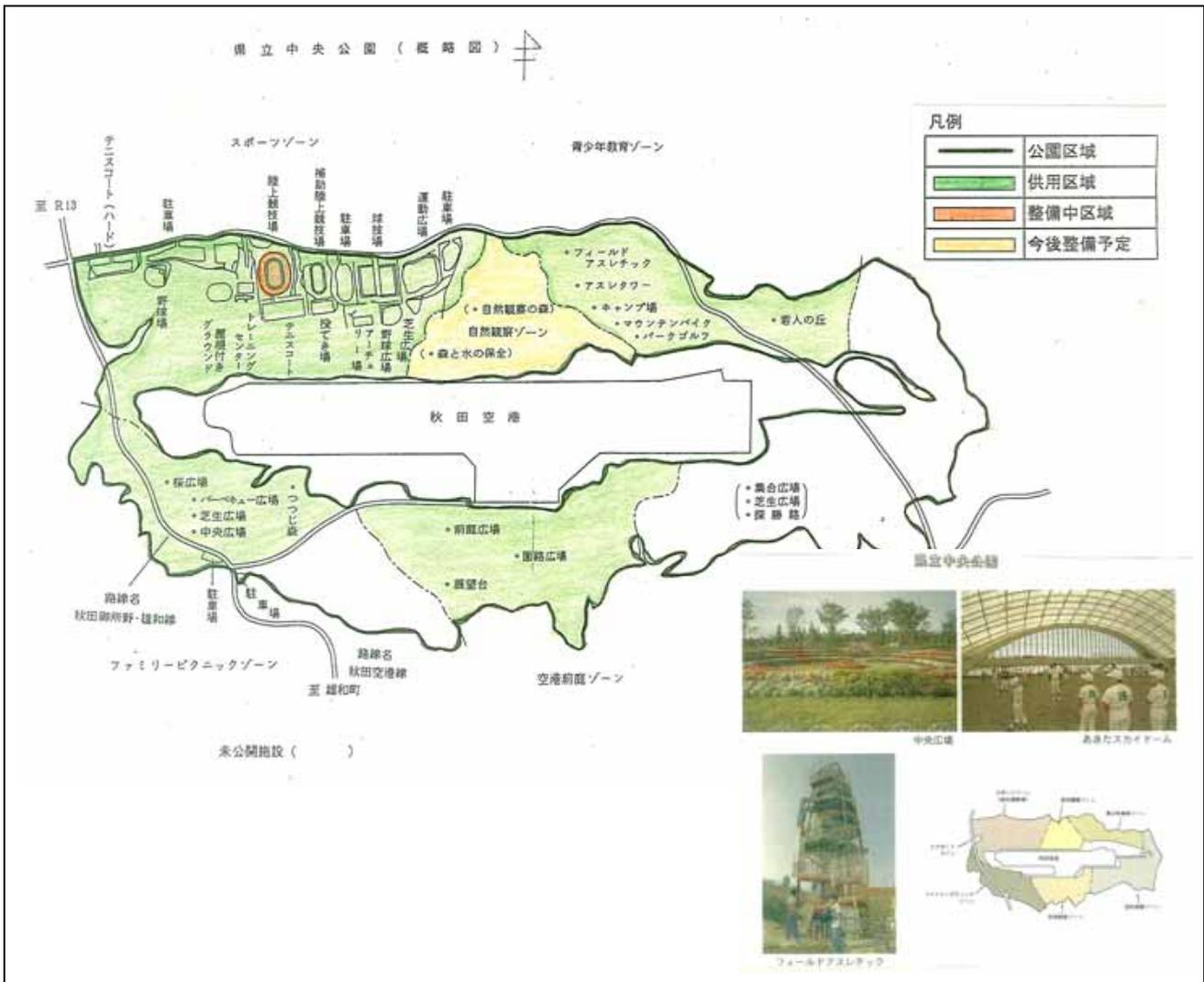
事業実施主体 秋田県

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

秋田空港を取り囲む広大な土地を利用した、6ゾーンからなる公園である。
 陸上競技場、球技場、庭球場、野球場を備えたスポーツゾーン、噴水、展望台を備えたファミリーピクニックゾーン、空港前庭ゾーン、自然観察ゾーン、青少年教育ゾーン、自然探勝ゾーンにゾーン区分されており、それぞれが本格的に整備された公園である。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

秋田県建設交通部都市計画課 TEL 018(860)2446

秋田県 大曲市総合公園

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村等

・雄物川流域地方生活圏 秋田県大曲市

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	大曲市総合公園
種類	広域的に利用される公園として、やすらぎと潤いを提供するため公園緑地の創出
規模	計画面積 40.3ha 供用面積 8.2ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

本公園は、余暇活動のニーズ、ライフスタイルの変化に対応するため、丘陵公園構想のマルチゾーンとして位置づけられた。

(目的)

自然緑地を主体に、隣接する県立科学館、ファミリースキー場、キャンプ場などを配置した、市民のみならず、広域的に利用される公園とする。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・整備した施設……テニスコート、子ども広場、多目的広場、エントランス広場、野球場
- ・今後の計画施設……アップルランド、木の実の森、花の木広場、ドイツの森、陸上競技場

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

- ・平成3年度から平成15年まで施設の整備を実施した。
- ・平成16年度以降は水辺、交流、林間の各ゾーンを整備する。

(事業)

活用事例に適用されている事業

- ・都市公園整備事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

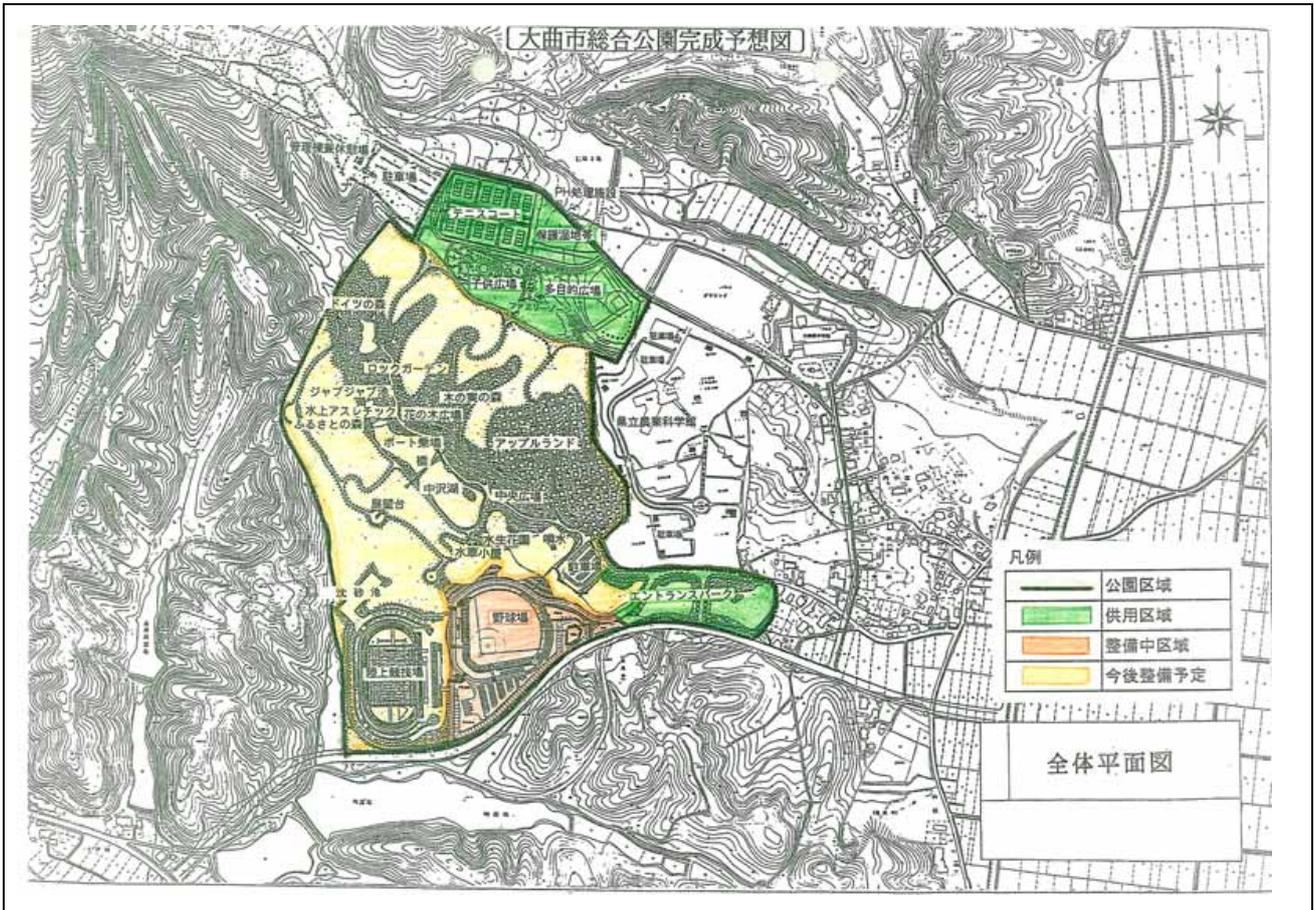
- ・事業実施主体 大曲市

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・都市公園区域外に県立農業科学館、ファミリースキー場が隣接して整備されており、多目的・広域的に利用できる公園である。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

- ・秋田県建設交通部都市計画課 TEL 018(860)2446

富山県 魚津市 魚津総合公園整備事業

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	魚津総合公園
種類	総合公園
規模	11.6ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景・目的)

当公園は富山県魚津市の南西部に位置する総合公園で、区域内には水族館・遊園地が既存しており、多くの人々に親しまれている。その反面で公園築造後20年が経過し、また利用者のニーズが多様化してきており、新たな施設が強く望まれているため、これに対応した整備を進めている。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・園路広場
- ・修景施設
- ・教養施設
- ・休憩施設
- ・便益施設
- ・大型遊具

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間：H14年度～H18年度

H15年度末事業進捗率：41%

H15年度末開園面積：11.6ha

(事業)

活用事例に適用されている事業

都市公園整備事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、魚津市

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

既存公園の再整備

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

富山県土木部都市計画課

富山県 富山市 城址公園整備事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

富山市

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	城址公園
種類	総合公園
規模	7.4ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景・目的)

本公園は、富山市の中心部に位置する富山城址を都心のオアシス空間として活かし、市民から緑豊かな公園として親しまれている。

平成10年度に策定した「城址公園基本計画」に基づき、より魅力ある公園として整備していくものである。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・園路広場
- ・修景施設
- ・教養施設
- ・休憩施設
- ・便益施設
- ・大型遊具

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間：H9年度～H27年度

H15年度末事業進捗率：45%

H15年度末開園面積：6.8ha

(事業)

活用事例に適用されている事業

都市公園整備事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
事業主体は、富山市

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

県都富山市の中心部に位置する富山城址を活用した公園

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

富山県土木部都市計画課

山口県 萩市 萩ウェルネスパーク整備事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

萩市

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	萩ウェルネスパーク
種類	広域公園
規模	18.6ha 野球場、多目的体育館、多目的広場

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

高齢化社会の到来、環境問題への意識の高まり等、社会経済情勢が変化している。このような中、都市公園においても「新たなライフスタイル」や「魅力ある地域づくり」の観点から、高齢者の日常的な健康運動、子供たちの健全な発育の場として、また、地域の余暇活動、スポーツ・健康運動等、様々な活動の場としての整備が求められている。

(目的)

各年齢層の適性に応じ、生涯にわたって手軽に健康運動が行えるとともに、地域住民の出会いや語り等を通じたコミュニケーションの場としてスポーツ・リクリエーション活動の拠点となる施設の整備を進める。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・ 共用施設
野球場、ゲートボール場、遊具広場、多目的体育館
- ・ 共用予定施設（H16年11月）
多目的広場

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成16年度に主な施設整備は完了する予定。

今後、「萩ウェルネスパーク利用促進計画」を作成し、施設の利用促進を図る。

(事業)

活用事例に適用されている事業

都市公園事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
市町村、各団体との連携を図り、公園利用者のニーズにあった整備を行うことが必要。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

4種公認（広域市町村の大会を開くことのできる程度）の陸上競技施設等を備えた多目的広場を整備中である

■図版・写真等



多目的体育館



野球場

<http://www.pref.yamaguchi.jp/gyosei/toshi/01.htm>

■担当（紹介）部署

土木建築部 都市計画課 担当 部川

電話 083-933-3728

山形県 金山町 最上川ふるさと総合公園果樹活用事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山形県寒河江市大字寒河江、大字島及び大字柴橋地内

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	最上川ふるさと総合公園
種類	都市公園
規模	28.9ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

平成7年度から整備を進めている「最上川ふるさと総合公園」内には、用地買収時点において既に果樹（サクランボ、ブドウ、カキ、リンゴ等）が自生しており、現在、果樹の自然な景観を生かした形で公園整備が進められているが、その果実の有効活用については、必ずしも計画的に実施されてはいなかった。

そこで、14年度に同公園を主会場として「第19回都市緑化フェア」が開催されたことを契機に、15年度より「最上川ふるさと総合公園果樹活用事業」として実施することとなった。

(目的)

「最上川ふるさと総合公園」内に自生する果樹の有効活用を図る。具体的な事業の内容としては、福祉施設の利用者と一般公募ボランティアが果樹の有効活用を通じて交流する場を設定することにより、併せてノーマライゼーションの推進にも資する。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

「最上川ふるさと総合公園果樹活用事業」により整備された施設及び今後整備を計画している施設等はない。山形県村山総合支庁建設部で進めている「最上川ふるさと総合公園整備事業」により整備された施設等をそのまま利用している。

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成15年度から概ね3年間を予定している。

15年度は、障害福祉施設の利用者及び一般公募ボランティアが公園内のサクランボ（6月頃に収穫作業実施）、リンゴ、カキ（10月～11月頃に収穫作業を実施）の収穫作業を行った。参加者数は、障害福祉施設の利用者等が延べ約750名、一般公募ボランティアが延べ約70名で、合計820名。

16年度は、15年度の参加者に加え、児童福祉施設からも参加を募ることにしている。

(事業)

活用事例に適用されている事業

本事業は、村山総合支庁管内の地域課題解決をねらいとした「村山総合支庁戦略プロジェクト」の一環として実施されている。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業実施主体は山形県村山総合支庁であるが、事業目的を達成する上で、真に不可欠な主体は、障害福祉施設の利用者、児童福祉施設の利用者及び一般公募ボランティアである。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

県立都市公園内の果樹を、障害者とボランティアの交流の場として活用する事例は、全国的にも希少なものである。

■図版・写真等



位置図



配置図



「最上川ふるさと総合公園」全景図 リンゴ収穫作業風景

「最上川ふるさと総合公園」http://www.pref.yamagata.jp/db/toshikei/421500/Park02_06.htm

■担当（紹介）部署

山形県村山総合支庁保健福祉環境部福祉課

富山県 富山市 呉羽山公園整備事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

富山市

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	呉羽山公園
種類	総合公園
規模	114ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(目的)

本公園は、富山市の西部に位置する呉羽丘陵にあり、自然豊かで市民の散策の場として親しまれています。また市民が自然や富山の風土と文化を理解し、身近に触れる場として都市緑化植物園の整備を進めています。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・園路広場
- ・修景施設
- ・休憩施設
- ・便益施設
- ・遊具

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間：S36年度～未定

H15年度末事業進捗率：49%

H15年度末開園面積：19.0ha

(事業)

活用事例に適用されている事業

都市公園整備事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
事業主体は、富山市

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

都市緑化植物園の整備

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

富山県土木部都市計画課

富山県 富山市 城山公園整備事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

富山市

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	城山公園
種類	総合公園
規模	342.5ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景・目的)

本公園は、富山市の西部に位置する呉羽丘陵にあり、昭和59年に開園した富山市ファミリーパークを中心とした自然豊かな総合公園です。

平成15年度より富山市ファミリーパーク内において、環境学習の拠点施設として体験学習施設の建築工事に着手しており、平成16年度末の完成を予定しています。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・園路広場
- ・修景施設
- ・教養施設
- ・休憩施設
- ・便益施設
- ・大型遊具

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間：S42年度～未定

H15年度末事業進捗率：73%

H15年度末開園面積：150ha

(事業)

活用事例に適用されている事業

都市公園整備事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
事業主体は、富山市

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

環境学習の拠点施設として体験学習施設の整備

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

富山県土木部都市計画課

福井県 あわら市（旧金津町） トリムパークかなづ（環境植樹祭等）

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

金津町（本年3月1日より「あわら市」）山室

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	トリムパークかなづ
種類	県営総合公園
規模	公園面積 約20ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

将来この地域を担う青少年に、ふるさとの自然の素晴らしさと大切さを正しく楽しく教育していくことが、いずれは地域の自然を守る大人を育てることと信じて子供たちへの自然教室を地道に続けていくとともに、それらの子供たちと大人たちが一緒になって崩れ始めた生態系の復帰復元を支援していくことも大切と考えている。また同様に、障害者、高齢者、子供などの社会的弱者が安心して住める郷土づくりが今求められているが、財政の厳しい行政にばかり頼れない現実の中で、市民活動の役割が一層重要となってきた。

（目的）

親子で地域の自然環境を守る意識を高め、未来につなぐ

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・「どんぐり」のなる木であるカシ、シイノキ、シロダモなど9種類の苗2500本植樹
- ・廃材を使った巣箱の製作と設置15個

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成13年度～

平成14年度までに、以下の事業を実施した。

- ・環境植樹祭
- ・竹田川ラフティング（親子がゴムボートでふるさとの川遊びを通して自然環境保護の大切さを学ぶ）
- ・愛鳥サタデー（親子が野鳥観察や廃材を使った巣箱作り）
- ・公園内の植樹周辺の清掃や草刈

平成15年度には、以下の事業を開催した。

・公園内の植樹周辺の清掃や草刈

(事業)

活用事例に適用されている事業

特定非営利活動に係る事業

・青少年の自然教室、生態系調査分析および生態系復帰支援事業、自然環境に関する情報提供事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体:NPO法人 グリーンウェル(平成13年4月18日団体設立)

目的:①自然を愛する人づくり(自然環境)②人に優しいまちづくり(社会福祉)

事業:①子供たちへの自然教育 ②生態系復帰の支援活動 ③バリアフリーのまちづくり推進事業・コンサルタント ④自然環境と福祉に関する情報収集・提供・データ管理 ⑤どんぐり苗木販売・植樹・樹木管理・清掃・草刈 ⑥住民意識調査・イベント企画・運営・出版・講演

会員:坂井郡・吉田郡・福井市・大野市・勝山市など約400名

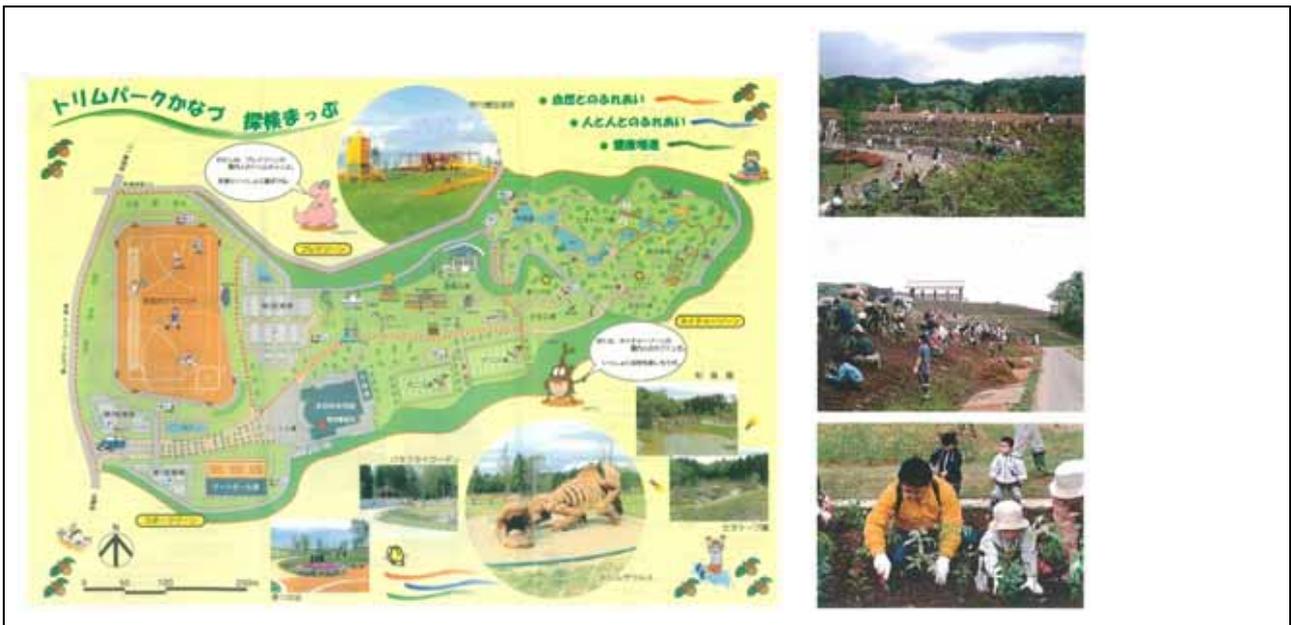
組織:理事長1名 副理事長2名 専務理事1名 事務局長1名 理事5名 監事2名

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

住民内発型の自然環境保護活動や生態系復帰活動を家族ぐるみで取り組み、子供会員を通して活動が地域に広がっている点が、特徴として評価できると考えている。

■図版・写真等



■担当(紹介)部署

福井県土木部都市整備課

秋田県 能代港中島地区における緑地整備

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

能代市中島地先（能代港中島地区）

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	能代港中島緑地
種類	港湾緑地（休息緑地）の創出
規模	緑地 6.5ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

港湾における安全で快適な労働環境を提供するほか、地域住民等港や海に親しむことのできる空間を創造するため、緑地の整備が要請されている。

（目的）

港湾における快適な環境を創造するため、親水性に配慮した緑地を整備する。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

○平成5年度～12年度に整備された施設

- ・緑地
- ・駐車場

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は平成5年度～平成12年度である。

平成12年度までに、以下の事業を実施した。

- ・緑地実施設計及び施設整備

（事業）

活用事例に適用されている事業

港湾環境整備事業－緑地等施設整備事業費

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり
事業主体は秋田県である。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

隣接する能代海岸砂防林「風の松原」との一体性を高める整備を実施した。

■図版・写真等



全景



能代港

■担当（紹介）部署

秋田県建設交通部港湾空港課

秋田県 秋田港本港地区における緑地整備

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

秋田市土崎港西1丁目（秋田港本港地区）

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	秋田港本港緑地
種類	港湾緑地（シンボル緑地）の創出
規模	緑地 3.4ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

港湾における安全で快適な労働環境を提供するほか、地域住民等港や海に親しむことのできる空間を創造するため、緑地の整備が要請されている。

（目的）

港湾における快適な環境を創造するため、親水空間の確保に配慮した緑地を整備する。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

○平成2年度～9年度に整備された施設

- ・緑地
- ・覆い付緑地（セリオン・リスタ）
- ・多目的広場
- ・駐車場

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は平成2年度～平成9年度である。

平成6年度までに、以下の事業を実施した。

- ・秋田港ポータルネッサンス21調査（秋田港港湾計画調査）
- ・緑地及び覆い付緑地実施設計及び施設整備

（事業）

活用事例に適用されている事業

港湾環境整備事業－緑地等施設整備事業費

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

緑地の事業主体は秋田県である。

隣接する「ポートタワー セリオン」は、秋田市、秋田県及び民間企業が出資する第三セクターにより設置され、現在「ポート秋田(株)」により運営されている。また、隣接する「秋田港振興センター：セリオンプラザ」は秋田市により整備運営されている。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

当事業において整備された覆い付緑地（セリオン・リスタ）や広場、駐車場等が、「ポートタワー セリオン」（第3セクター経営）や、秋田市の「秋田港振興センター：セリオンプラザ」と調和し、環日本海時代における秋田の海の玄関口としてふさわしい「多目的な港湾空間」が創出された。

■図版・写真等



全景



秋田港



覆い付緑地 セリオン・リスタ



- ・覆い付緑地 セリオン・リスタ：<http://www.pref.akita.jp/kowan/rista.htm>
- ・ポートタワー セリオン（ポート秋田(株)）：<http://w2.amn.ne.jp/~selion/>
- ・秋田港振興センター セリオンプラザ：<http://www.city.akita.akita.jp/city/in/hb/port/plaza.htm>

■担当（紹介）部署

秋田県建設交通部港湾空港課

秋田県 本荘港田尻地区における緑地整備

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

本荘市田尻地先（本荘港田尻地区）

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	本荘港田尻緑地
種類	港湾緑地（休息緑地）の創出
規模	緑地 3.4ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

港湾における安全で快適な労働環境を提供するほか、地域住民等港や海に親しむことのできる空間を創造するため、緑地の整備が要請されている。

（目的）

港湾における快適な環境を創造するため、景観性に配慮した緑地を整備する。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

○平成7年度～12年度に整備された施設

- ・緑地
- ・便所
- ・広場

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は平成7年度～平成12年度である。

平成12年度までに、以下の事業を実施した。

- ・緑地実施設計及び施設整備

（事業）

活用事例に適用されている事業

港湾環境整備事業－緑地等施設整備事業費

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

- ・緑地の事業主体は秋田県である。
- ・緑地に隣接する「本荘マリーナ」は秋田県が事業主体として整備済である。
- ・緑地に隣接するオートキャンプ場については本荘市が事業主体として整備済みである。
- ・緑地に隣接する海水浴場は、秋田県が海岸環境整備事業により設置したものであり、本荘市が「本荘マリーナ海水浴場」としてこれを管理している。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

- ・当緑地、マリーナ施設、海水浴場及びオートキャンプ場が一体となり、周辺でも類をみない海洋性レクリエーションゾーンを形成している。

■図版・写真等



全景



本荘港



本荘マリーナ：<http://www.pref.akita.jp/kowan/kanri04.htm>

本荘マリーナオートキャンプ場：<http://www.city.honjo.akita.jp/life/>

■担当（紹介）部署

秋田県建設交通部港湾空港課

富山県 新湊市 伏木富山港（新湊地区）における港湾景観形成モデル事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

伏木富山港（新湊地区）西埋立地 新湊市海王町

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	西埋立地北部地区
種類	海王丸パーク、海王丸、富山新港野鳥園、立山連峰
規模	51.3ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景及び目的）

港の特色を生かした良好な景観形成を図るため、モデル的な港湾において、景観形成のための計画を策定し、これに基づき港湾景観を積極的に向上させるもの。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

海王丸パーク

旅客船バース（海王岸壁）

野鳥園

日本海博物館

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成元年度 「日本海ミュージアム」構想として富山新港西埋立地土地利用計画を策定

平成4年度 海王丸パークの供用開始、海王丸の本係留の開始

平成8年度 野鳥園完成

（関係主体）

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業実施主体：富山県（一部の整備に国土交通省が実施）

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

立山連峰への景観を尊重し、帆船「海王丸」を活用した親水性の高い交流空間の形成を目指すとともに、日本海及び富山湾に関するミュージアム・エリアとして、人と海が出会い、ふれあえる新しいプラザ（広場）となり、個性あふれる楽しいマリフロントが創出されることを期待している。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

富山県土木部港湾課

富山県 富山市 水橋地区ふれあい漁港漁村整備計画

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

富山市

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	水橋漁港
種類	漁村地域
規模	水橋地区ふれあい漁港漁村整備計画面積 A=約7ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

水橋の白岩川河口は、昭和初期まで天然の良港（商業港）として船舶の出入りが多く、宿場町として栄えていたが、近年は、運送交通機能の変革と共に沿岸漁業の基地としての漁港のみとなり、かつての賑わいはなくなってきている。

近年、水橋では、漁獲量の低迷、漁業就業者の減少・高齢化、後継者不足等の漁業環境は厳しい状況におかれており、水産業を核とする沿岸・沖合域の総合的な整備により、水産業の振興とともに地域の活性化を図る必要がある。

国民の余暇時間の増大により、観光やレジャーへのニーズが高まっており、当地区においても、従来の海水浴や釣りなどにくわえ、プレジャーボート、サーフィン等の海洋性レクレーションの多様化により、沿岸域における余暇活動に対する需要が近年急激に増加している。

水橋漁港から、東には立山連峰、西には砂浜と松林が続く海岸が一望できるなど優れた景観を有しており、市民の憩いの場としての整備が望まれている。

また、水橋漁港に隣接する白岩川では、遊漁者人口の増加に伴い、多数のプレジャーボートが無秩序に不法係留されており、河川機能の低下ばかりでなく、河川環境・景観にも支障を及ぼしている。

(目的)

このような沿岸域の環境や景観を生かした親しまれる漁港整備を推進することにより、海洋性レクレーションを促進し、都市住民との交流により、漁業や地域の活性化を図る。

また、フィッシャリーナの整備により、白岩川に不法係留されているプレジャーボートを収容することによって、良好な河川環境の創出を図る。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

親水防波堤・護岸（整備中）、フィッシャリーナ（計画）

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成6年度～平成19年度

平成14年度事業実施：親水防波堤L=120mなど漁港施設整備

平成15年以降整備予定：防波堤など外郭施設整備、臨港道路など漁港敷地造成、フィッシャリーナ整備（H13～H19）

(事業)

活用事例に適用されている事業

・地域水産物供給基盤整備事業（H14～H18）

水産物の生産・流通の拠点づくりを推進する漁港施設の整備を行う。

・漁港利用調整事業（H13～H19）

遊漁船を分離収容する施設を整備することにより、漁業と海洋性レクリエーションの共存を図り、漁場利用の秩序を保持し、漁業生産活動の円滑化を図る。

(関係主体)

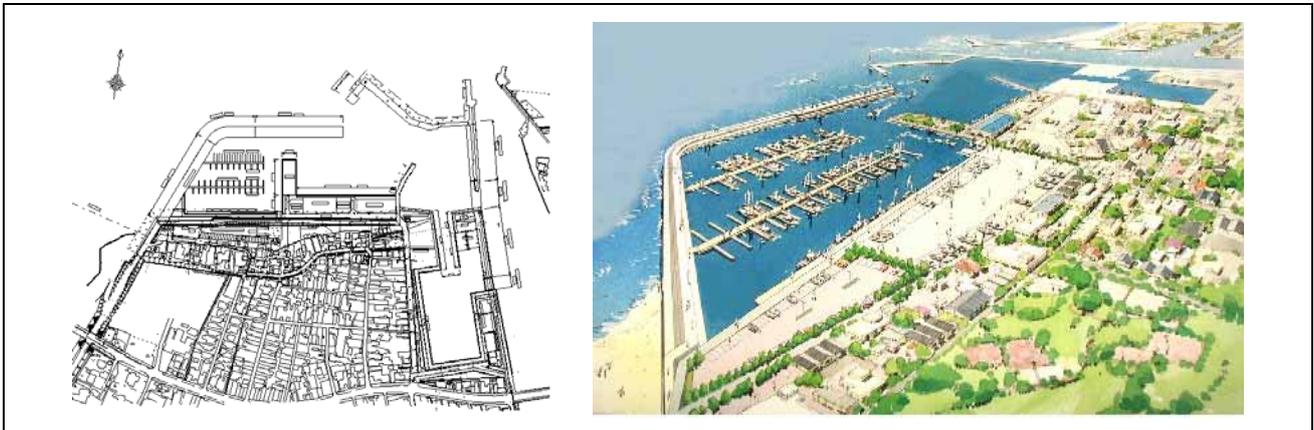
計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、富山市。当地区の景観や環境を保全し、地域の活性化を目指す水橋ふれあい漁港漁村整備計画は、地域住民の協力が不可欠であり、地元漁業者、水産団体、地域住民等が組織する「水橋ふれあい漁港漁村整備促進協議会」から寄せられた意見等を基に、計画策定を行っている。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

富山市農林水産部農林水産課

富山県 氷見市 氷見地区ふれあい漁港漁村整備計画

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

氷見市

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	氷見漁港 環境緑地
種類	漁村地域
規模	緑地計画面積 A=約 22 h a

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

以下の要因により、早急な対策が必要となっている。

・近年、漁獲量の低迷、漁業就業者の減少等の漁業環境は厳しい状況におかれており、水産業を核とする沿岸・沖合域の総合的な整備により、水産業の振興とともに地域の活性化を図る必要がある。国民の余暇時間の増大により、観光やレジャーへのニーズが高まっており、都市住民が農山漁村において、豊かな自然とのふれあいや農林水産業の体験により、地域住民と交流を楽しむブルーツーリズムが盛んになっている。

従来の海水浴や釣りなどにくわえ、プレジャーボート、スキューバダイビング等の海洋性レクリエーションの多様化により、沿岸域における余暇活動に対する需要が近年急激に増加している。

(目的)

氷見漁港は定置網漁業を中心とした氷見市沿岸域の漁業生産拠点であり、海岸部は能登半島国立公園に指定され、周辺には阿尾海岸や沖合には唐島があるなど、沿岸域の自然環境が保全されている地域である。

この沿岸域の環境保全を図り、漁港や海岸へのアクセス、良好な景観形成に配慮した親しまれる漁港漁村づくりを推進し、海洋性レクリエーションの促進により、漁村地域の活性化を図る。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

親水護岸（既設）、フィッシャリーナ（計画）、緑地広場（計画）、遊歩道（計画）、展望台（計画）

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成 6 年～平成 19 年

平成 14 年度までに以下の事業を実施した。

・親水護岸 L = 1,100m

・漁港環境緑地

平成 15 年以降の整備予定

・フィッシャリーナ整備 (H14~H18)

・漁港環境緑地

(事業)

活用事例に適用されている事業

・広域漁港整備事業 (H14~H18)

水産物の生産・流通の拠点づくりを推進する漁港施設の整備を行う。

・漁港利用調整事業 (H14~H18)

遊漁船を分離収容する施設を整備することにより、漁業と海洋性レクリエーションの共存を図り、漁港利用の秩序を保持し、漁業生産活動の円滑化を図る。

・漁港環境整備事業 (H15~H19)

漁港内の緑化、景観の保持、美化を図り、快適で潤いのある漁港環境を形成する。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、富山県及び氷見市である。

氷見漁港の景観保全には、地域住民の協力が不可欠であり、地元漁業者、水産団体、地域住民等から寄せられた意見等を基に、計画策定を行っている。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

■図版・写真等



■担当 (紹介) 部署

富山県農林水産部水産漁港課

石川県 能登島町 海岸環境整備事業 鳴島地区

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

鹿島郡能登島町

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	緩傾斜護岸（階段式）、天端被覆（遊歩道兼用）、植樹帯、突堤
種類	
規模	約300m

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

中能登農道橋の完成により、能登島大橋から中能登農道橋へと町内の観光ネットワークが完成し、これにより能登島の新たな玄関口として情報発信基地及び交流・休憩機能が充実した施設整備が必要となった。

（目的）

本事業により、親水性の高い護岸、遊歩道兼用の天端被覆・植樹帯・突堤を整備し、併せて、他事業である「道の駅」の整備により駐車場・トイレ・休憩広場の整備、能登島町による物産館の整備などの総合的な整備を行い、町民共有の財産である自然と産業を調和させながら地域の活性化を図る。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

（本事業）

緩傾斜護岸、天端被覆、植樹帯、突堤

（他事業）

駐車場、トイレ、休憩広場、物産館

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は平成13年度～平成16年度である。

他事業は平成15年度に完了予定である。

（事業）

活用事例に適用されている事業

海岸環境整備事業

(他事業)

道の駅 (県土木部)

物産館 (能登島町)

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

■図版・写真等



■担当 (紹介) 部署

石川県農林水産部農業基盤整備課

兵庫県 香住町 香住海岸ルネッサンス計画

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

兵庫県城崎郡香住町香住、七日市、矢田、下浜地区

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	香住海岸
種類	海岸及び背後地
規模	海岸延長 約1.5km、 背後地（土地利用）約7.6ha

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

昔、白砂青松の勇姿を誇る海岸美豊かな香住海岸は、日本海特有の厳しい冬季風浪によりその海岸線は年々侵食され、やせ細る一方であった。また、香住町は漁業、水産加工業、民宿などの観光産業等、多くの人々が、何らかの形で“海”からの恩恵を受けているが、低迷する水産業の影響を受け、観光客で賑わう冬の“松葉ガニ”シーズン以外は、町の活力は年々損なわれつつある。

（目的）

白砂青松であった香住海岸を昔の姿に復活させ、香住町の町のイメージである“海”を活用し、年間を通じて都市と漁村との交流を促進することにより地域全体の活性化を図る。約1.5kmの海岸を「交流ふれあいゾーン（町民と観光客との交流の場）」「海浜レクリエーション（ホスピタリティのある観光・リゾート地）」「民宿リゾートゾーン（民宿ストックを活用した新たな民宿・リゾート地）」の3つのゾーン形成・整備を行うことにより、地域活力の向上と海（自然）との共生によるこころゆたかなまちの創生を図る。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

ゾーン毎に下記施設（設備）を実施、計画している。	
○交流ふれあいゾーン （香住地区）	整備済み；人工リーフ、埋め立て用地、階段護岸、公衆用トイレ2棟 整備中；園路（ボードウォーク）、緑地、多目的広場、養浜 整備計画；文化交流施設、地域物産展示直売店、駐車場、休憩施設、照明設備
○海浜レクリエーション ゾーン	整備済み；人工リーフ、突堤 整備中；養浜、公衆用トイレ2棟（脱衣場、シャワー室含む）、園路（ボードウォーク） 整備計画；緑地、照明設備
民宿リゾートゾーン （2期計画）	民宿ストックを活用した新たな民宿・リゾート地を形成する計画である。

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成3年度～平成17年度の予定である。

1 平成14年度まで

① 香住海岸ルネッサンス計画策定委員会の開催 ② 香住海岸ルネッサンス計画推進委員会の開催
③ 地元説明会 ④ 香住海岸ルネッサンス計画促進(推進)委員会の開催 [推進委員会から促進委員会に変更] ⑤ シンポジウムの開催 ⑥ 基本計画策定 ⑦ 各種施設の実施計画及び施設整備

2 平成15年度以降

- ・ 各種施設整備の実施促進

(事業)

国庫補助事業、県単独事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は兵庫県および香住町である。計画段階より学識経験者、地域住民団体、地域関係団体の代表者および行政にて構成された香住海岸ルネッサンス計画推進委員会を立ち上げ、計画段階より地域住民の参画と協働にて事業を推進している。また土地利用計画の中には地域の業界団体、民間事業者による地域物産直販店等の出店も計画されており、地域との関わりが不可欠である。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

土地利用計画において地域住民参加型のワーキンググループ、策定部会、検討委員会を立ち上げたことは大いに評価できる。

■図版・写真等



■担当(紹介)部署

兵庫県但馬県民局地域振興部但馬水産事務所

山口県 萩市 萩漁港 漁港環境整備事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

萩市後小畑地区

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	美萩海浜公園
種類	人工海浜及び緑地帯の整備
規模	人工海浜 200m、緑地帯 2,800㎡

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

当地区は海岸直背後に国道191号が通過し、その背後地は狭隘で地元住民の憩いの場となる公園がない状態であった。また海岸には昭和50年ころまでは天然の砂浜があり、地区住民に利用されていたが、周辺の人工構造物の設置による潮流の変化により年々侵食されやせ細り、地元からはその復元を求める声が強くなっていた。

(目的)

当事業により、地区で不足する運動公園や散歩などの憩いの場となる公園、また喪失した砂浜を復元することで夏場の海水浴場として地区住民のコミュニケーションの場を確保を目的とする。併せて冬季風浪による砂の飛散を低減する目的での植栽を行ない、平成15年7月に完成した。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

公園面積 10,800㎡
護岸約 400m
緑地（芝及び植樹） 2,800㎡
便所・シャワー室 1棟
あずまや 2棟

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

夏場は海浜部において海水浴等に、西側の公園部においては地元の老人クラブがグランドゴルフ等に利用している。他の施設についても通年利用がなされている。

(事業)

活用事例に適用されている事業

萩漁港 漁港環境整備事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

施設の配置や広場等の広さなどは地元関係者との協議により決定した。樹種の選定も萩市との協議により決定した。なお、施設の維持管理は地元の萩市が行っている。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

地元自治会や老人クラブも積極的に施設の維持管理に参加しており、清潔で利用しやすい公園となっている。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

水産部漁港漁村課整備班 担当者 山縣郁夫 電話 083-933-3569

山口県 豊北町 角島エコアイランド整備事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

豊浦郡豊北町角島

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	北長門海岸国定公園・角島
種類	海岸景観
規模	3.96平方キロメートル

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

離島であった角島は、平成13年に開通した角島大橋により、利用者が大幅に増加することが予想され、地域の活性化への期待とともに、島に残された貴重な自然への影響が懸念された。

そこで、①島全体を自然と共生した美しい島にし、それを最大の魅力にするとともに②島の主力産業である漁業を中心にした振興をするの2点を基本にして交流を図ることを目的として「角島エコ・アイランド基本計画」が策定された。

この基本計画の中心的施設として「大浜野営場」と「つのしま自然館」を整備し、15年4月の全体がオープンした。

(目的)

「つのしま自然館」は、北長門海岸国定公園の主要な拠点であり、貴重な自然が残されている角島において、自然公園の保全と共に適切な利用の促進できる施設として整備した。

「つのしま自然館」には、自然解説指導員を配置し自然観察や自然環境学習を行うとともに、その運営については、自然活動団体だけでなく地域の多様な主体が参画し、利用と保全を地域が一体となって取り組むよう協議会を設けている。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

- ・大浜野営場：ケビン・休憩場・公衆便所・テントサイト・炊事等・管理棟等
- ・つのしま自然館：鉄筋コンクリート平屋建て 467平方メートル

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成15年度

- ・自然観察会（毎月） 全国野鳥保護のつどいイベント

(事業)

活用事例に適用されている事業

角島エコアイランド整備事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業主体は、山口県であるが、その管理は豊北町である。

運営にあたっては、行政機関だけでなく自然活動団体、漁協、物産振興団体、教育機関等が参加した運営協議会を設けている。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

地域の人たちが、「つのしま自然館」を地域の財産として運営に主体的に参画し、地域の活動拠点となるよう運営されている。同館のシンボルとして展示されているクジラの骨格標本（レプリカ）が、90年ぶり発見されたクジラの新種と発表されたことにより利用者が急増している。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

山口県環境生活部 自然保護課 担当者 小田俊一 電話 083-933-3060

山形県 新庄市 エコロジーガーデン推進事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

山形県新庄市太田地区

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名 称	新庄市エコロジーガーデン
種 類	樹木の豊富な環境ふれあい交流公共施設
規 模	10.7 h a

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景・目的)

旧東北農業試験場が、昭和9年に蚕糸試験場として開設され、平成12年3月で閉鎖となり、その跡地を市民のやすらぎの空間、交流の拠点として活用してほしいと多くの市民から要望があった。

このため、「水と緑が織りなす自然の生態系や風致的素材を生かし、人間と自然の共生が体験できる空間」の創造を図るため開設した。試験場の歴史や景観を重視し、体験・交流等の参加型機能を併せ持つエリアとして多面的な利用展開を図っている。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

①「ふれあい親しむエリア」

環境研究施設：「バイオマスセンター」として、市民とともにバイオマス研究を進める施設。

交流研修施設：「研修室」と「交流室」があり、有料ですがどなたでも借りられる。

やすらぎ交流施設：産地直売所「まゆの郷（さと）」において地元農家の農作物を直売している。

資料室：蚕糸研究の歴史や新庄出身で蚕糸学の権威である平塚英吉先生に関する資料や、バイオマス研究などを展示している。

②「はぐくみ学ぶ」エリア：りんごや梨の原種木が2,000本以上植えられているエリアで現在整備中。

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

事業期間は、平成14年度からである。平成14年度以降、以下の事業を実施している。

①バイオマス関連事業 [バイオマス技術による肥料作りの実験実証事業、エネルギー作物としてのソルガム栽培実験実証事業、バイオマスセミナーの開催（もがみオープンカレッジの開催）、バイオマス技術を通じた環境教育の実践] ②産地直売所の開始による、生産農家と消費者の交流、③市民グループによる環境改善のグラウンドワーク実践事業、④「NPO もがみ」の市民活動支援事業

今後についても、引き続き事業を展開し、さらに次の事業を展開予定である。

①新エネルギー関連推進モデル事業の実施、②各種交流事業の実施

(事業)

活用事例に適用されている事業

○地球環境対策活用：エコ発電（風力発電、太陽光発電、バイオマス発電等）、雪氷冷熱エネルギーによる環境負荷軽減及び地域活性化事業

○親しみある環境形成・活用：グラウンドワーク活動による住民参加型の環境改善事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

基本的な考えとして「民・産・学・官」連携推進施設と位置付けている。行政間（県、市）の連携は不可欠であり、交流や環境改善事業については地域住民の協力や連携は不可欠である。NPO 市民団体の活動も交流推進や地域の活性化などの面で欠かせない。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

事業のベースになるエコロジーガーデンの施設は趣があり、歴史を感じさせる。

市民活動との連携の中で交流拠点整備が進められ、またパートナーシップを深めるという住民参加型による緑地資源を活用した地域づくりの展開を行っている点は、特徴として評価できる。

■図版・写真等



関東方面ネットワーク農縁若者との交流会 産地直売所「まゆの郷」のにぎわい 小学生向け環境教育



「バイオマス寺子屋」の活動状況



バイオマスセミナー実施状況



グラウンドワーク活動夏休みセミナー

■担当（紹介）部署

山形県 新庄市企画調整課 企画政策室

新潟県 『にいがた「緑」の百年物語 木を植える県民運動』 学校の森づくり事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

新潟県全域（平成 15 年度 8 箇所）

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	小中学校の学校校庭
種類	公共公益施設
規模	学校敷地内における概ね 300 m ² 以上の植栽可能なオープンスペース

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

学校は、青少年を育む場として、環境教育や自然体験が取り入れられており、一方で、PTA や地域住民の参画を得て児童生徒の心身の育成を図る諸活動を実施してきたという実績があり、『にいがた「緑」の百年物語—木を植える県民運動』の基本理念の一つである「心豊かな子供たちの育成」の具体的な展開の場として最適なフィールドといえる。

（目的）

総合的な学習の開始と合わせて、子供たちが身近に自然や生命を学び、緑と親しめる学校の森を学校、児童・生徒、地域住民、PTA などが協力し合ってつくり、育てることを目的とする。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

平成 15 年度は、8 校の学校の森づくりを推進するため、そのマウンド造成（植栽基盤）についての経費を助成した。なお、植栽にかかわる苗木、肥料などについても助成制度などの紹介を行っている。

平成 15 年度実施校

- 1 小木町立深浦中学校、
- 2 新潟市立女池小学校、
- 3 燕市立小中川小学校、
- 4 小国町立上小国小学校
- 5 神林村立西神納小学校、
- 6 巻町立巻北小学校、
- 7 三条市立裏館小学校、
- 8 松之山町松之山小学校

■活用状況

（スケジュール・今後の展開予定）

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

平成 15 年度は、①地域における学校の森づくりのモデルとなるもの、②地域の緑の百年物語の波及効果の高いもの、③地域住民やボランティア団体との連携など、緑化活動への意識啓発効果があるものなどを考慮し、8 校の学校の森づくりを進め、その活動におけるマウンド造成（植栽基盤整備）にかかわる経費に対して助成を実施した。

なお、平成 16 年度についても全県で 8 校の森づくりを推進することとし、平成 17 年度までの事業

展開を予定している。また、より学校の森の理解・周知を図るため「学校の森づくりの手引き」等の製作配布を今後予定している。

(事業)

活用事例に適用されている事業

新潟県：にいがた「緑」の百年物語県民運動事業 学校の森づくり事業

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

緑の百年物語県民運動の中心的な役割を担う(社)にいがた緑の百年物語緑化推進委員会と県が協働して学校の森づくりを進めている。具体的には、植栽経費は、推進委員会などが支援を実施している。

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

学校の森は、様々なグループとの協働で作られ、育てられるものであり、森づくりを通じた地域づくりにも貢献している。

■図版・写真等



百年物語内容については、(社)にいがた緑の百年物語緑化推進委員会のホームページ

<http://www.midori100.com>

■担当(紹介)部署

新潟県総合政策部企画課緑の百年物語推進班

石川県 内浦町 地域資源活用型 体験交流施設

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

内浦町

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名称	内浦町内の農林水産業、伝統文化、自然環境
種類	農林水産業、伝統文化、自然環境
規模	53.81 k m ² (内浦町面積)

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

(背景)

景観に恵まれた海岸線、バラエティに富んだ農林漁業、四季の味覚、歴史・文化に支えられた各種の伝統行事など恵まれた地域資源。一方、過疎及び高齢化がますます進んでいく中で、これまで以上に都市部からの交流人口の増大を図り、地域の活性化が必要。

(目的)

恵まれた自然景観だけではなく、農林漁業や伝統文化を活用し、「内浦町のファン」を生み出し、都市住民の来訪回数、滞在期間の増大を図ることにより、体験型交流者の誘客を農林漁業の活性化、地域の活性化につなげる。

■主な施設

活用事例において整備された施設、既存施設、また計画施設等

体験交流施設 ラプロ恋路
体験農園

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

体験農園	14年度～
体験交流施設	15年7月オープン
16年度には、体験イベントの企画やPR等のソフト事業を実施	

(事業)

活用事例に適用されている事業

新山村振興等農林漁業特別対策事業	13～16年度
------------------	---------

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

事業実施主体：内浦町

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

○体験メニューの企画及び実施は、農林漁業から商工関係までの幅広いメンバーで組織する内浦町ふれあい体験ネットワークで行っている。

○浴場のみの利用も可能で、地域住民の利用も多く、訪問客と地域住民の交流も図られる。

■図版・写真等



■担当（紹介）部署

石川県農林水産部中山間地域対策総室

富山県 新川広域圏 水博物館構想推進事業

■位置

生活圏域名、市町村名、市町村における地区名等

魚津市、黒部市、宇奈月町、入善町、朝日町

■緑地資源の概要

活用緑地資源の名称、種類や規模等

名 称	水博物館構想
種 類	川、湧水、扇状地、峡谷等の自然、動植物の生態系、水の恩恵や水との闘いの歴史や文化など
規 模	面積 927km ² （魚津市 201、黒部市 87、宇奈月町 341、入善町 71、朝日町 227）

■活用の目的等

活用事例の背景、目的等の概要

（背景）

新川広域圏では、平成8年6月策定の「富山県新川地方拠点都市地域基本計画」の中に「水に関わる資源や施設のネットワーク化とともに、その中核となる博物館を整備し、「水」文化等を内外に発信する「水文化ネットワーク」の形成」を位置付けた。

- ・平成9年2月には、新川広域圏各市町及び県等をメンバーとする水博物館（仮称）構想推進協議会を設立。
- ・平成9年度以降、県からの補助金と黒部市、入善町の負担金により基礎調査を開始。
- ・平成12年1月の協議会において、黒部川流域の優れた水環境をネットワークするフィールドミュージアムを整備するとの構想が示された。
- ・平成13年4月水博物館構想推進室が新川広域圏事務組合に設置（同年7月から水博物館構想推進室で学芸担当職員を採用。）
- ・平成13年度に基本構想策定委員会を開催（3回）し、水博物館基本構想の取りまとめを行った。
- ・平成14年2月から水博物館のホームページを開設。
- ・平成14年7月に水博物館（仮称）構想推進協議会において、水博物館基本構想承認。11月には、フィールドツアーの試行「水博発見ツアー」を実施。15年度には、水博発見ツアー、地域学芸員養成講座等を実施。

（目的）

新川地域において既存の特色ある自然環境や治水利水事業を生かして、新川の水の過去、現在を学習し、さらには未来の水環境を考える場として、また人を育て新しい地域づくりの行動を始める場として水博物館を設置し、「水」文化等を内外に発信する「水文化ネットワーク」を形成しようとするもの。

■活用状況

(スケジュール・今後の展開予定)

活用事例の計画・整備、開始時期、今後の展開予定等

1 初期 (H13年度～14年度)

水博物館構想の具体化に向け、基本構想の策定を行うとともに、博物館資料となる事業等の調査やそのデジタルアーカイブ化による保存収集など、博物館活動の本格実施に向けた諸準備を行う。

2 中期 (H15年度～17年度)

資料収集を継続、拡大するほか、電子情報化された資料等を活用したバーチャルミュージアム（電子博物館）の開設や住民参加によるフィールド活動を本格的に実施する。

3 後期 (H18年度～)

これまでの諸活動の更なる充実、拡大を行うとともに、新たな中核施設の整備については、住民ニーズ等を勘案し、中核施設として求められる機能や適正規模等についてその対応を検討する。

(関係主体)

計画や実施に際して不可欠な主体、特に地域住民団体、NPO組織、業界団体、民間事業者の関わり

新川広域圏の各市町村、黒部川扇状地研究所、日本黒部学会など

■特徴

評価できる点、他事例にはないと考えられる特徴等

住民を巻き込んだフィールドツアー、資料収集活動や地域学芸講座を開催するなど、施設整備に先駆けて、フィールドミュージアムとしての活動を幅広く展開している。

■図版・写真等



フィールドマップ

・H.Pアドレス niikawa.or.jp/mizuhaku/

■担当（紹介）部署

富山県水雪土地対策課